

## 行政調査報告書「建設常任委員会」

平成27年7月8日（水）～7月10日（金）

### ■石川県金沢市『金沢駅西広場再整備事業について』

金沢駅西広場は、平成3年3月土地区画整理事業により駅前広場として開設されたが、平成27年3月14日の北陸新幹線金沢開業をはじめ社会情勢やニーズの変化に伴い、利用者増加への対応や交通結節点としての機能強化が求められ、平成25年度に再整備された。

玄関口にふさわしい顔づくりは、正面からの見通しと円滑な交通動線を確保したゾーニングは渋滞・事故防止対策として大変参考になった。

金沢は、1年を通じて雨が大変多いため濡れずに移動ができるシェルター設置は大変有効であると感じた。人にやさしい広場として、歩行空間のバリアフリーなど、駅の東側にも同様の工夫が見られ、安らぎを感じ取れる空間となっていた。本市としても、12年後のリニア中央新幹線の開通がもたらすインパクトの恩恵を活かせるような戦略的なまちづくりや安城市の顔となる玄関口として、駅周辺のハード・ソフトを含めた再開発事業は、早急に取り組むべき課題であるとする。



### ■富山ライトレール株式会社（富山県富山市）『富山ライトレールについて』



富山市のLRTである「富山ライトレール」は、既存の線路を復活させるかたちで導入された。

LRTの利用者増加を狙って、駅から一定の距離範囲内で高齢者有料賃貸住宅を建設する事業主に対しての資金援助のほか、高齢者の利用を想定してユニバーサルなICカードを富山市独自に作っている。同時に自転車が似合うまち並み整備も着々と行われており、各駅の駐輪場整備も行うなどした点が画期的であった。

キーワードを「快適性・地域性」「情報発信」「先進性」とし、この3つの視点を尺度として、車両、電車、シンボルマークなどのデザインを総合的に行っている点は、今後の安城市の公共交通のあるべき姿を考えていく上で参考になりたいと考える。

### ■東京都文京区『不燃化特区事業について』

不燃化特区とは、東京都による「木密地域不燃化10年プロジェクト不燃化推進特定整備地区制度」の実施に伴い、木造住宅密集市街地のうち大地震等発生時に、特に大きな被害が想定される地域を対象に指定されている。文京区では、平成26年に大塚五、六丁目が指定され、平成32年度までに対象560戸の不燃領域率70%を目標に取り組んでいる。



この事業は、本市の行う住宅の耐震補強助成制度に加えて、全国的にも問題となっている危険空き家対策や、震災後に発生する恐れがある通電火災を防ぐ感震ブレーカー設置補助などともに、住民の大切な命と財産を守る為に必要な、総合的助成制度を検討する上で参考となる制度であるとする。